

四半期報告書

(第155期第1四半期)

自 平成27年4月1日

至 平成27年6月30日

広栄化学工業株式会社

E 0 0 8 3 7

第155期第1四半期（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

広栄化学工業株式会社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期財務諸表】	8
2 【その他】	13
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	14

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年8月11日

【四半期会計期間】 第155期第1四半期(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

【会社名】 広栄化学工業株式会社

【英訳名】 KOEI CHEMICAL COMPANY, LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 津田重典

【本店の所在の場所】 大阪市城東区放出西二丁目12番13号
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】 ー

【事務連絡者氏名】 ー

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町1番8号

【電話番号】 03(6837)9304

【事務連絡者氏名】 経理室長 浜辺昭彦

【縦覧に供する場所】 東京本社
(東京都中央区日本橋小網町1番8号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第154期 第1四半期 累計期間	第155期 第1四半期 累計期間	第154期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	3,854,785	4,314,376	18,664,538
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△226,760	180,293	703,880
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△) (千円)	△148,760	119,293	329,202
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	2,343,000	2,343,000	2,343,000
発行済株式総数 (株)	24,500,000	24,500,000	24,500,000
純資産額 (千円)	12,334,931	13,083,929	13,091,988
総資産額 (千円)	20,324,171	20,786,902	20,512,452
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は四半期純損失金額 (△) (円)	△6.08	4.88	13.46
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	7.00
自己資本比率 (%)	60.7	62.9	63.8

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

3 第154期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第154期及び第155期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間のわが国経済は、原油価格下落及び為替の円安効果が企業業績を押し上げ、緩やかな回復傾向が継続しました。また、景気回復により、企業の景況感も改善し、輸出関連業種を中心に設備投資も増加しました。

このような情勢のもとで、当社は、コスト合理化及び生産性向上に取り組むとともに、売価是正、拡販に注力し、収益改善に努めました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は43億14百万円（前年同四半期比11.9%増）となり、営業利益は1億41百万円（前年同四半期は営業損失2億20百万円）、経常利益は1億80百万円（前年同四半期は経常損失2億26百万円）、四半期純利益は1億19百万円（前年同四半期は四半期純損失1億48百万円）となりました。

セグメントの状況につきましては、ファイン製品部門の売上高は29億27百万円（前年同四半期比13.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は2億40百万円（前年同四半期は営業損失1億21百万円）となりました。化成品部門の売上高は13億86百万円（前年同四半期比8.7%増）となり、セグメント損失（営業損失）は99百万円（前年同四半期は営業損失99百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

① 資産

流動資産は前事業年度末に比べ2億76百万円増加し114億81百万円となりました。

固定資産は前事業年度末とほぼ同水準の93億5百万円となりました。

この結果、総資産は207億86百万円となり、前事業年度末に比べ2億74百万円増加しました。

② 負債

流動負債は、未払金の増加により、前事業年度末に比べ2億75百万円増加し56億46百万円となりました。

固定負債は前事業年度末とほぼ同水準の20億56百万円となりました。

この結果、負債合計は77億2百万円となり、前事業年度末に比べ2億82百万円増加しました。

③ 純資産

純資産は、四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより、前事業年度末に比べ8百万円減少し130億83百万円となりました。その結果自己資本比率は、前事業年度末63.8%から62.9%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は2億8百万円であります。なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第1四半期累計期間において、提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第1四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	24,500,000	24,500,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は、 1,000株であります。
計	24,500,000	24,500,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年6月30日	—	24,500,000	—	2,343,000	—	1,551,049

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成27年3月31日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 35,000	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,423,000	24,423	同上
単元未満株式	普通株式 42,000	—	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	24,500,000	—	—
総株主の議決権	—	24,423	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式398株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 広栄化学工業株式会社	大阪市城東区放出西二丁目12番13号	35,000	—	35,000	0.14
計	—	35,000	—	35,000	0.14

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	394,179	1,205,468
売掛金	4,771,827	4,149,959
商品及び製品	3,842,190	3,480,960
仕掛品	758,920	937,971
原材料及び貯蔵品	847,955	890,374
その他	589,637	816,435
流動資産合計	11,204,711	11,481,168
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,420,735	3,380,747
機械及び装置（純額）	2,440,817	2,451,511
その他（純額）	1,101,328	1,077,249
有形固定資産合計	6,962,881	6,909,509
無形固定資産		
	22,854	20,413
投資その他の資産		
投資有価証券他	2,330,117	2,383,925
貸倒引当金	△8,114	△8,114
投資その他の資産合計	2,322,003	2,375,811
固定資産合計	9,307,740	9,305,733
資産合計	20,512,452	20,786,902
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,752,180	2,670,550
短期借入金	1,540,000	1,540,000
未払法人税等	188,445	65,994
賞与引当金	97,000	-
その他	793,295	1,370,094
流動負債合計	5,370,920	5,646,639
固定負債		
退職給付引当金	1,597,469	1,617,702
その他	452,073	438,630
固定負債合計	2,049,542	2,056,333
負債合計	7,420,463	7,702,972
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,343,000	2,343,000
資本剰余金	1,551,049	1,551,049
利益剰余金	7,964,020	7,912,061
自己株式	△10,475	△10,475
株主資本合計	11,847,594	11,795,635
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,244,393	1,288,293
評価・換算差額等合計	1,244,393	1,288,293
純資産合計	13,091,988	13,083,929
負債純資産合計	20,512,452	20,786,902

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	3,854,785	4,314,376
売上原価	3,386,797	3,457,347
売上総利益	467,987	857,029
販売費及び一般管理費		
発送費	122,893	130,279
給料手当及び賞与	199,357	214,053
退職給付費用	15,982	18,113
試験研究費	215,679	201,296
その他	134,659	151,989
販売費及び一般管理費合計	688,572	715,732
営業利益又は営業損失(△)	△220,584	141,297
営業外収益		
受取配当金	24,367	22,529
為替差益	-	29,535
雑収入	3,202	4,027
営業外収益合計	27,570	56,092
営業外費用		
支払利息	4,390	2,728
固定資産除却損	2,504	14,192
為替差損	25,950	-
雑損失	899	174
営業外費用合計	33,745	17,096
経常利益又は経常損失(△)	△226,760	180,293
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△226,760	180,293
法人税等	△78,000	61,000
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△148,760	119,293

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	
原価差異の繰延処理	操業度等の季節的な変動に起因して発生する原価差異等については、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産（その他）として繰延べております。
税金費用の計算	当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	376,772千円	307,773千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月12日 取締役会	普通株式	73,396	3.00	平成26年3月31日	平成26年6月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月12日 取締役会	普通株式	171,252	7.00	平成27年3月31日	平成27年6月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ファイン製品部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,579,124	1,275,660	3,854,785	—	3,854,785
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,579,124	1,275,660	3,854,785	—	3,854,785
セグメント損失(△)	△121,309	△99,274	△220,584	—	△220,584

(注) セグメント損失の合計は、四半期損益計算書の営業損失と一致いたします。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ファイン製品部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,927,590	1,386,785	4,314,376	—	4,314,376
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,927,590	1,386,785	4,314,376	—	4,314,376
セグメント利益又は セグメント損失(△)	240,901	△99,604	141,297	—	141,297

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計は、四半期損益計算書の営業利益と一致いたします。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△)	△6円08銭	4円88銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△) (千円)	△148,760	119,293
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額(△) (千円)	△148,760	119,293
普通株式の期中平均株式数(株)	24,464,995	24,464,602

- (注) 1. 当第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 前第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成27年7月2日の取締役会において、当社のペンタエリスリトール類（ペンタエリスリトール、ジペンタエリスリトール、ギ酸ソーダ）に係る事業を譲渡することを決議いたしました。

1. 事業譲渡の理由

当社は既存事業の抜本的な構造改革を図るため、ペンタエリスリトール類（ペンタエリスリトール、ジペンタエリスリトール、ギ酸ソーダ）に係る事業をPERSTORP AB(publ)に譲渡することを決定しました。

当事業は、事業環境の悪化に対応すべく生産合理化に努めてきましたが、今後の設備維持、補修等の更なる投資を行い競争力を維持していくことは困難であると判断いたしました。

2. 事業譲渡の概要

事業譲渡先の名称	PERSTORP AB (publ)
譲渡事業	ペンタエリスリトール類(ペンタエリスリトール、ジペンタエリスリトール、ギ酸ソーダ)事業
譲渡事業の売上高	3,830百万円 (2015年3月期売上高実績: 18,664百万円の20.5%)
譲渡資産	知的財産、ノウハウ、営業記録、関連諸契約等 なお、棚卸資産、固定資産の変動はございません。
譲渡価額	譲渡先との契約により非公表とさせていただきます。
日程	事業譲渡取締役会決議 平成27年7月2日 事業譲渡契約締結 平成27年7月6日 事業譲渡期日 上記締結日から1年後目処

2 【その他】

(剰余金の配当)

平成27年5月12日開催の取締役会において、平成27年3月31日における株主名簿に記録された株主又は登録質権者に対し、剰余金の配当（期末）を行うことを次のとおり決議致しました。

- | | |
|----------------------|-----------|
| ① 配当金の総額 | 171,252千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 7円 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成27年6月2日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月11日

広栄化学工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 瀬 洋 人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 米 山 英 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている広栄化学工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第155期事業年度の第1四半期会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、広栄化学工業株式会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年8月11日

【会社名】 広栄化学工業株式会社

【英訳名】 KOEI CHEMICAL COMPANY, LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 津 田 重 典

【最高財務責任者の役職氏名】 ー

【本店の所在の場所】 大阪市城東区放出西二丁目12番13号

【縦覧に供する場所】 東京本社
(東京都中央区日本橋小網町1番8号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長津田重典は、当社の第155期第1四半期（自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。